



在学生のワタシ★アクション!

超小型モビリティで

新たなまちづくりに挑戦!

特集01 地域を新たな学びの場として
地域を創る人材を育てる。

特集02 季節を楽しみながらキャンパス散歩

ラボ★アクション!

キャンパスフレンズさんさ踊り実行委員会

KENDAI NEWS

ケンダイ広報局

卒業生のワタシ★アクション!



卒業生のワタシ★アクション!

県立病院の看護師として
地域の人々の健康をサポート!



櫻幸恵先生が影響を受けたノーバディーズ・パーフェクト・プログラムに関する本。

ラボ★アクション!

先生たちの 研究の流儀

地域のシンクタンクであり、多彩な学部を擁する岩手県立大学には、個性豊かな先生がたくさんいる。彼らがどんな想いを抱き、日々どんな研究に取り組んでいるのか。その横顔に迫ってみたい。



陸前高田市で行われたNP講座の様子。

「親たちが変わる様子を見ながら思うんです。学びこそが人生の扉を開くカギだ」と。櫻先生は、NP講座を行う一方、ひとり親家庭や被災地での子育てを支援するワークショップの開催を通して、一人でも多くの母親たちが自分自身の人生を生き抜いていけるようサポートしている。

**親自身が成長することで
生き方そのものが変わり
子育ての仕方が変わる。**

「どんな生き方をしても自由なんだと、カナダに留学して初めて感じる事ができたんです。すごくラクになれましたね。そう話すのは、子育て中の親を支援する研究を行っている櫻幸恵先生。岩手県職員を辞めて、大学講師になったという経歴の持ち主だ。

仕事を優先し、残業も厭わなかった。「多忙な課に配属になった時は、子どもが寝てから帰るような毎日…。そんな時子どもに言われたんです。お母さん、次はいつ家に来るの?」って。自分の働き方に疑問を持った櫻先生は、退職を決意。2人の子どもを連れ、留学のために日本を飛び出した。

「低所得層の親は学習機会を欠いている人が多く、学びに対する意識も低い。でも、どうせ無理」と思っている親たちが、プログラムを通して自分の長所に気づき、前向きな姿勢に変わってくるんですよ。自信を持つことで、親の人生そのものが変わる。その変化は必ず子どもにも良い影響を与えている。」

社会福祉学部 櫻 幸恵 講師 Yukie Sakura

岩手県住田町生まれ。岩手大学人文社会科学部を卒業後、リクルートに入社。岩手県職員に転じ、保健福祉部児童家庭課等を経て、13年間勤務した県庁を退職。1年間カナダに留学した後、岩手県立大学に勤務しながら東北大学大学院教育学研究科で学ぶ。社会福祉学部の講師として児童福祉実習やソーシャルワーク演習に携わる傍ら、子ども家庭福祉を専門領域として低所得世帯の親への教育的支援を中心に研究に取り組んでいる。

DATA



挑戦するだけで満足はしない。
やるからには結果を残さなければ。

「くる街プロジェクト」で一緒に活動している
岩手大学の学生たちと平野さん。



STUDENTS Voice

自分のやりたいことや好きなことを見つけ、その実現に向かって頑張っている学生たちがいる。彼らが何を思い、どんな行動を起こしているのか。一人ひとりの「ワタシアクション!」をご紹介します。

大学に入学したら漠然と過ごすのではなく、自分にしかできないことを何か形にしたいと思っていました。

入学当初はその「何か」が明確ではなかったのですが、1年の半ばに自分の道を方向づける出来事があったんです。それは、岩手大学工学部で次世代小型EV(電気自動車)の設計・開発に取り組んでいる学生たちとの出会いです。EVの可能性に興味を持っていた私は、メンバーに参加。彼らと一緒に活動していく中で、「連携してプロジェクトをやる」という話が生まれました。

うちの大学には車を作る技術はありませんが、福祉や地域づくりといった視点から「ひとの幸せ」を考える学部がある。つまり、ソフトの面から車にアプローチすることで、EVによる新たなまちを創造できるのではないかと話し合っただけです。

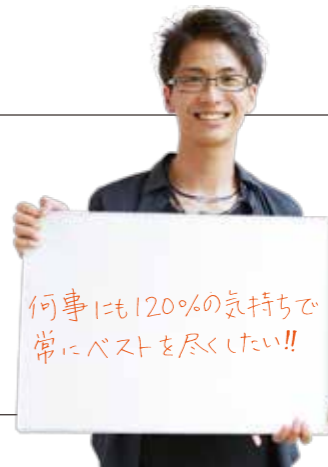
そして今年の4月、超小型モビリティを活用したまちづくりを目指す「くる街プロジェクト」を学内に発足。現在代表として7人のメンバーと共に、EV試乗会や勉強会の開催など、様々な活動を行っています。また模索段階ですが、車を持たない高齢者が暮らしやすくなる導入するなど、EVから暮らしや地域が変わる可能性は無限大。私自身、新たなことを自分の手で切り拓いていけるのが楽しくて仕方ありません。

プロジェクトを通して身につけてきたマネジメント力や実行力、思い描いた夢をしっかりと実現する大切さを教えてくれた社会人との出会いはかけがえのない財産。今しかできないことに全力で取り組みながら、卒業までにEVのモデルタウンを形にできれば最高ですね。

ワタシ★アクション!

ソフトウェア情報学部2年
平野 竜 Ryu Hirano

1994年生、岩手県北上市出身。黒沢尻北高校卒業。中・高校時代はバレーボール部に活躍。小さい頃から車が大好きで、将来は車に携わる仕事に就きたいと考え、ソフトウェア情報学部のある岩手県立大学に進学。リーダーとしてプロジェクトをまとめるだけでなく、メンバーそれぞれの成長を大事にしていきたいと考えている。



何事にも120%の気持ちで
常にベストを尽くしたい!!

...See You
Next
Action!

地域を新たな学びの場として 地域を創る人材を育てる。

「1・2年生のうちに地域課題を学ぶと、その後の大学生活の取り組み方が確実に変わります」と、ある学生は言う。教科書の上で学ぶだけでは「他人ごと」だが、実際に地域で体感することで地域課題を「自分ごと」として考えるようになるからだ。地域のために、自分は何ができるのか。学生たちの主体的な「学び」のきっかけをつくる、『地域創造学習プログラム』が本格的にスタートした。



宝来館の女将・岩崎昭子さんが、震災時の様子や復興に向けての思いを講話。



7月に行われた釜石コースで、講師の話に真剣に耳を傾ける学生たち。



コーディネーターとして釜石コースのプログラムを企画した小原裕也さん。



釜石郷土資料館では、まちの歴史や震災当時の話を学んだ。



復興商店街を視察しながら、店主たちの思いをヒアリング。

地域を学ぶ教育プログラムで、自主的な学びの基礎を築く

「地域とともに歩む大学」を掲げる岩手県立大学では、地元企業や住民と連携して様々な研究教育活動を行ってきた。一方で、研究の一環や一部の授業で学生が地域に入ることはあっても、全学的な教育の取り組みとして地域交流を図ったことはなかった。

そこで県立大学では今年度、岩手の「知の拠点化を目指す『地域創造プラン』」を策定。その中で、地域に向き合う教育活動を進める前段階として、1・2年生を対象とする「地域創造学習プログラム」をスタートした。これは、県内各地に学生が赴き、1泊2日のフィールドワークを通して実践的な地域づくりを学ぶもの。それぞれの地域の現状と課題を自分の目で確かめ、その課題の解決方向を考察することにより、学生が主体的に学び、行動するきっかけを作ることとしている。

また、コース内容を学生自らが企画・実施するのも大きな特徴だ。地域活動の経験のある2〜4年生がコーディネーターとなって企画を練り、教育復興支援員(卒業生)や教員らがアドバイザーとしてサポート。このプロセス自体が、学生の企画力やマネジメント力の育成にも役立つているのだ。

今年度は、宮古市、大槌町、釜石市、西和賀町、盛岡市滝沢市の5コースでフィールドワークを実施。県立大学、盛岡・宮古の両短期大学部から、各コース約30人の学生が参加する。

初めて見たこと学んだこと、
体験こそが学生の糧になる

7月12日・13日、1泊2日の日程で釜石コースの「地域創造学習プログラム」が実施された。19名の参加学生と7名の企画実行学生、さらにアドバイザーの教職員、地域活動を実践してきた教育復興支援員(卒業生)が加わり、フィールドワークに出発した。

1日目は、震災前後の釜石の商業、漁業の変化を学び、市役所職員や店主に話を伺いながら課題を把握するプログラム。宿泊先の宝来館では、女将の岩崎昭子さんから震災当時の状況や再開に至るまでの経緯を伺った。2日目は、地元の漁師さんの講話を聞いた後、自分たちにこれから何ができるのかを、参加学生たちでグループ討議。自分の目で見た被災地の状況、出会った人々の話を思い出しながら、今後取り組むべきことについて真剣に意見を交わした。

今回、釜石コースを企画した小原裕也さん(会福祉学部4年)は、ボランティアとして何度も釜石に足を運び、支援に関わってきた学生だ。

「プログラムを考える時にまず思ったのが、宝来館の女将さんの話を核にすること。私自身、何度も話を聞いていますが、復興に向かう行動力や情熱は学生に勇気をくれるもの。早い段階に現場の人の思いに触れ、多くのことを経験することで、その後の大学生活が確実に変わります。」

実際に足を運び、自分自身で感じることで、その体験こそが、かけがえない学びになるのだ。

岩手県立大学
中村 慶久 学長

宝来館女将
岩崎 昭子 さん

釜石の復興に向けて、オピニオンリーダーとして活躍する宝来館の女将・岩崎昭子さん。そして「地域創造学習プログラム」を発案した中村慶久学長。若者たちと接する機会の多い2人が、学生に期待すること、大学の果たすべき役割について熱いトークを繰り広げた。

[進行・佐々木民夫高等教育推進センター長]



対談中の佐々木センター長(左)、中村学長(中央)、岩崎さん(右)。



岩手県立大学学長
中村 慶久 学長

釜石の復興に向けて、オピニオンリーダーとして活躍する宝来館の女将・岩崎昭子さん。そして「地域創造学習プログラム」を発案した中村慶久学長。若者たちと接する機会の多い2人が、学生に期待すること、大学の果たすべき役割について熱いトークを繰り広げた。

岩崎さん 学生さんたちの姿を見て、「自分たちもしっかりしないと励まされること」があります。いつまでも支援されて当たり前という姿勢では、やがて地域も廃れてしまふ。私たち自身で生きる力をつけていかないと地域の未来はないと気づきました。

中村学長 確かに被災地でも自立を考えていかなければなりませんね。岩手には豊かな資源がたくさんあるのに、その良さを活かしてきていない歯がゆさを感じます。教育においても、学生たちに岩手の魅力に気づいてもらい、それをいかに活用するかを考えてほしい。それが岩手の力になればと願っています。

岩崎さん 岩手には素晴らしい自然があり、人情豊かな人々がいる。豊かなものを守りながら、最先端のものも生み出せる大きな可能性があります。世界的に見ても、岩手は理想的な場所ではないでしょうか。

中村学長 新たな発想で岩手の良さを活かしていくのが、これからの若い世代。今回のプログラムでもリーダーになっている学生は、被災地出身の学生が多いんです。仲間自分の地域を見てもらい、一緒に未来を考えてもらいたいと企画していました。

岩崎さん 今回参加された学生さんたちを見て、女子学生が多いですね。これからの地域づくりは、女性の参加がカギ。問題意識を持って地域活動に取り組み女性を育てていくことが、とても大事だと思います。

中村学長 本当にその通りですね。我々も「地域創造学習プログラム」を定着させて、1年生の全員が参加できるようにしていきたい。そして地域での学びが、やがては地域活性化につながるような循環を育てていければと考えています。

岩崎さん 学びの場として釜石を選んでほしい、学生に訪れてもらうことは、地元子どもたちの刺激にもなります。震災で多くの人に出会いましたが、制度や仕組みがあっても、それを理解し、実行できる人間がいなくては何も動かない。県立大学には、地域のために体を張って考え、実行できる人材を育ててほしいですね。

中村学長 新たな発想で岩手の良さを活かしていくのが、これからの若い世代。今回のプログラムでもリーダーになっている学生は、被災地出身の学生が多いんです。仲間自分の地域を見てもらい、一緒に未来を考えてもらいたいと企画していました。

岩崎さん 今回参加された学生さんたちを見て、女子学生が多いですね。これからの地域づくりは、女性の参加がカギ。問題意識を持って地域活動に取り組み女性を育てていくことが、とても大事だと思います。

中村学長 本当にその通りですね。我々も「地域創造学習プログラム」を定着させて、1年生の全員が参加できるようにしていきたい。そして地域での学びが、やがては地域活性化につながるような循環を育てていければと考えています。

岩崎さん 学びの場として釜石を選んでほしい、学生に訪れてもらうことは、地元子どもたちの刺激にもなります。震災で多くの人に出会いましたが、制度や仕組みがあっても、それを理解し、実行できる人間がいなくては何も動かない。県立大学には、地域のために体を張って考え、実行できる人材を育ててほしいですね。

中村学長 新たな発想で岩手の良さを活かしていくのが、これからの若い世代。今回のプログラムでもリーダーになっている学生は、被災地出身の学生が多いんです。仲間自分の地域を見てもらい、一緒に未来を考えてもらいたいと企画していました。

岩崎さん 今回参加された学生さんたちを見て、女子学生が多いですね。これからの地域づくりは、女性の参加がカギ。問題意識を持って地域活動に取り組み女性を育てていくことが、とても大事だと思います。

中村学長 本当にその通りですね。我々も「地域創造学習プログラム」を定着させて、1年生の全員が参加できるようにしていきたい。そして地域での学びが、やがては地域活性化につながるような循環を育てていければと考えています。

岩崎さん 学びの場として釜石を選んでほしい、学生に訪れてもらうことは、地元子どもたちの刺激にもなります。震災で多くの人に出会いましたが、制度や仕組みがあっても、それを理解し、実行できる人間がいなくては何も動かない。県立大学には、地域のために体を張って考え、実行できる人材を育ててほしいですね。

中村学長 新たな発想で岩手の良さを活かしていくのが、これからの若い世代。今回のプログラムでもリーダーになっている学生は、被災地出身の学生が多いんです。仲間自分の地域を見てもらい、一緒に未来を考えてもらいたいと企画していました。

岩崎さん 今回参加された学生さんたちを見て、女子学生が多いですね。これからの地域づくりは、女性の参加がカギ。問題意識を持って地域活動に取り組み女性を育てていくことが、とても大事だと思います。

中村学長 本当にその通りですね。我々も「地域創造学習プログラム」を定着させて、1年生の全員が参加できるようにしていきたい。そして地域での学びが、やがては地域活性化につながるような循環を育てていければと考えています。

岩崎さん 学びの場として釜石を選んでほしい、学生に訪れてもらうことは、地元子どもたちの刺激にもなります。震災で多くの人に出会いましたが、制度や仕組みがあっても、それを理解し、実行できる人間がいなくては何も動かない。県立大学には、地域のために体を張って考え、実行できる人材を育ててほしいですね。

中村学長 新たな発想で岩手の良さを活かしていくのが、これからの若い世代。今回のプログラムでもリーダーになっている学生は、被災地出身の学生が多いんです。仲間自分の地域を見てもらい、一緒に未来を考えてもらいたいと企画していました。

岩崎さん 今回参加された学生さんたちを見て、女子学生が多いですね。これからの地域づくりは、女性の参加がカギ。問題意識を持って地域活動に取り組み女性を育てていくことが、とても大事だと思います。

中村学長 本当にその通りですね。我々も「地域創造学習プログラム」を定着させて、1年生の全員が参加できるようにしていきたい。そして地域での学びが、やがては地域活性化につながるような循環を育てていければと考えています。

岩崎さん 学びの場として釜石を選んでほしい、学生に訪れてもらうことは、地元子どもたちの刺激にもなります。震災で多くの人に出会いましたが、制度や仕組みがあっても、それを理解し、実行できる人間がいなくては何も動かない。県立大学には、地域のために体を張って考え、実行できる人材を育ててほしいですね。

中村学長 新たな発想で岩手の良さを活かしていくのが、これからの若い世代。今回のプログラムでもリーダーになっている学生は、被災地出身の学生が多いんです。仲間自分の地域を見てもらい、一緒に未来を考えてもらいたいと企画していました。

岩崎さん 今回参加された学生さんたちを見て、女子学生が多いですね。これからの地域づくりは、女性の参加がカギ。問題意識を持って地域活動に取り組み女性を育てていくことが、とても大事だと思います。

中村学長 本当にその通りですね。我々も「地域創造学習プログラム」を定着させて、1年生の全員が参加できるようにしていきたい。そして地域での学びが、やがては地域活性化につながるような循環を育てていければと考えています。

岩崎さん 学びの場として釜石を選んでほしい、学生に訪れてもらうことは、地元子どもたちの刺激にもなります。震災で多くの人に出会いましたが、制度や仕組みがあっても、それを理解し、実行できる人間がいなくては何も動かない。県立大学には、地域のために体を張って考え、実行できる人材を育ててほしいですね。

中村学長 新たな発想で岩手の良さを活かしていくのが、これからの若い世代。今回のプログラムでもリーダーになっている学生は、被災地出身の学生が多いんです。仲間自分の地域を見てもらい、一緒に未来を考えてもらいたいと企画していました。

岩崎さん 今回参加された学生さんたちを見て、女子学生が多いですね。これからの地域づくりは、女性の参加がカギ。問題意識を持って地域活動に取り組み女性を育てていくことが、とても大事だと思います。

中村学長 本当にその通りですね。我々も「地域創造学習プログラム」を定着させて、1年生の全員が参加できるようにしていきたい。そして地域での学びが、やがては地域活性化につながるような循環を育てていければと考えています。

岩崎さん 学びの場として釜石を選んでほしい、学生に訪れてもらうことは、地元子どもたちの刺激にもなります。震災で多くの人に出会いましたが、制度や仕組みがあっても、それを理解し、実行できる人間がいなくては何も動かない。県立大学には、地域のために体を張って考え、実行できる人材を育ててほしいですね。

中村学長 新たな発想で岩手の良さを活かしていくのが、これからの若い世代。今回のプログラムでもリーダーになっている学生は、被災地出身の学生が多いんです。仲間自分の地域を見てもらい、一緒に未来を考えてもらいたいと企画していました。

岩崎さん 今回参加された学生さんたちを見て、女子学生が多いですね。これからの地域づくりは、女性の参加がカギ。問題意識を持って地域活動に取り組み女性を育てていくことが、とても大事だと思います。

中村学長 本当にその通りですね。我々も「地域創造学習プログラム」を定着させて、1年生の全員が参加できるようにしていきたい。そして地域での学びが、やがては地域活性化につながるような循環を育てていければと考えています。

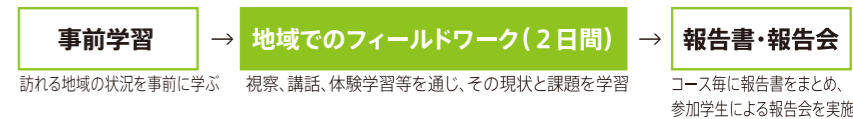
岩崎さん 学びの場として釜石を選んでほしい、学生に訪れてもらうことは、地元子どもたちの刺激にもなります。震災で多くの人に出会いましたが、制度や仕組みがあっても、それを理解し、実行できる人間がいなくては何も動かない。県立大学には、地域のために体を張って考え、実行できる人材を育ててほしいですね。

[地域創造学習プログラム]

■目的

学生が被災地をはじめとした岩手県内各地域の現状と課題に直に触れ、その課題の解決方法を考察。これによって、大学(短期大学部)での主体的・能動的な「学び」のきっかけを作るとともに、地域の中核人材の育成と活力創出に資する。

■内容



■平成26年度実施コース

コース	期日	内容(予定)	定員
宮古コース	6/28・29	【被災地の現状と課題を学ぶ】田老地区調査⇒三陸鉄道調査⇒現地の方との交流⇒宮古市長講話⇒ワークショップ	30名
大槌コース	7/12・13	【被災地の現状と課題を学ぶ】復興状況視察調査⇒震災復興学習プログラム体験⇒グループ体験学習⇒ワークショップ	30名
釜石コース	7/12・13	【被災地の現状と課題を学ぶ】復興状況視察調査⇒仮設商店街・釜石イオン調査⇒釜石市郷土資料館⇒宝来館での講話・意見交換会⇒漁師さんの講話・交流⇒ワークショップ	30名
西和賀コース	10/4・5	【中山間地域の福祉と環境政策を学ぶ】自立関連事業⇒保健師講話⇒最雄資料館⇒現地の方との交流⇒碧祥寺での講話	30名
盛岡・滝沢コース	11/8・9(予定)	【地元の地域政策を学ぶ】盛岡市/講演、盛岡市内調査、企画書作成、ワークショップ 滝沢市/学長との意見交換会、滝沢市内調査、ワークショップ	30名



田老地区の被災者の方に、復興に対する考えや思いを伺う。(宮古コース)



被災した田老地区を見下ろす学生たち。自分の目で見ることの大切さを実感。(宮古コース)



田老地区の住民の方を招き、復興への思いを聞きながらグループ毎に討議。(宮古コース)



震災ガイドの案内で被災した大槌町内を見学。津波の傷跡が生々しく残っている。(大槌コース)



学んだことを振り返りながら、自分たちができることをワークショップで議論。(大槌コース)

学生の成長を実感した1泊2日、今回の成果を次のステップに

今回実施される5コースは、それぞれプログラムが全く違い、学びの狙いも異なる。企画する学生たちが、それぞれの地域の特性を踏まえながら、内容をブラッシングしているからだ。例えば6月に開催された宮古コースは、県立大学と宮古短期大学の学生を交えた混成チームが参加。学部を超えた交流に重きをおきながら、地域での学びを今後の活動につなげられるようなプログラムが組まれた。また、被災したまちの様子を視察し、地元の方の話を聞くだけでなく、その場で、誰が何を感じ、何を疑問に思ったのかを、グループで共有。ワークショップに多くの時間を割き、自分たちができることを具体的に考え、確実なアクションに移せるような成果を目指した。

一方、釜石コースと同じく7月に行われ

大槌コースは、体験学習が多く盛り込まれたプログラムを企画。震災復興学習プログラム体験を始め、ストラップや染め物、ミサナガ制作、海岸清掃子どもたちの遊びを通して体験学習など、体験を通して考え、動くことによって地域づくりを考える流れになっている。

それぞれ参加する学生も内容も違うがどのコースにおいても共通しているのが、プログラムに参加したことで地域への関心や学びに対するモチベーションが高まったことだ。

「事前学習の時はほとんど話さなかった学生たちが、仲間と意見を交わすうちに積極的になり、行動するようになる。わずかに1泊2日の行程ですが学生の成長が目覚ましいですね」と、プログラム担当職員は強調する。

今年度は任意参加の課外学習という位置づけだが、学生の成長に大きな手応えを感じており、今後の成果や改善点などを検証しながら、今後の方向性を探っていく予定だ。

Campus Friends

Vol.1

さんさ踊り実行委員会

県立大学のサークルや同好会、
学生会活動を紹介する「キャンパスフレンズ」。
生き生きと活動する学生たちの様子をチェックしてみよう。



DATA

岩手県立大学さんさ踊り 実行委員会

2・3年生を中心に、現在メンバーは40名。盛岡さんさ踊りへの出場以外にも、新入生歓迎会、大学祭、国際交流の場などで踊りを披露している他、地域の祭りに招かれることも多い。さんさ踊りの魅力は、人を巻き込む力があること。そこにいる人々と一体となって踊る楽しさは格別だという。



みんなで作り上げていくさんさ、それが県大らしいさんさのカタチ。

「サッコラチヨイワッセー」とかけ声も高らかに、太鼓の音に合わせて軽快なテンポで群舞するさんさ踊り。これは盛岡市民に古くから親しまれてきた踊りで、毎年8月1日から4日まで行われる「盛岡さんさ踊り」には約250団体が出場し、華やかに踊りを競い合う。その中で毎年最優秀賞を勝ち取っているのが「チーム」を率いる岩手県立大学さんさ踊り実行委員会である。

「今年は何揃えるさんさを目標に、春からみんなで練習を重ねてきました」と話すのは、千田あやね実行委員長（看護学部3年）。「大学のさんさ踊りを盛り上げたい」と1年から入会した千田さんは、最終学年として後輩を率いる立場になって今年テーマを揃えるさんさと決めた。

「太鼓・笛・踊りのそれぞれのパートで、振り揃えるのはもちろんですが、私たちが目指したのは一体感全体を揃えることで、みんなの気持ちを一つにしたいと考えたんです。メンバーの4割が県外出身者という委員会は、大学で初めてさんさ踊りに触れる学生も多い。練習を重ね、上達していく中で、互いの振りを揃えようと努力するプロセスが、気持ちを一つに、踊る楽しさを広げる。「みんなで作り上げていくさんさ、それが県大のさんさ。揃えるさんさんなんです」と、太鼓リーダーの工藤夏海さん（総合政策学部3年）は強調する。

そして、迎えた8月2日。ピンクの揃いの浴衣で出場した県立大学は、その日の最優秀賞を受賞し、見事5連覇を成し遂げた。太鼓も笛も踊りも、総勢210名全員が心を一つにして手にした結果だった。



本部棟から北を臨むと美しい姿を見せる岩手山。特に雪景色の岩手山は美しい。



ミカンの原種やカリンの木など、実のなる樹々を愛でる楽しさも。



季節ごとに美しい花が咲き、キャンパスを彩る。



各学部棟のアプローチ脇には、シンボリックなポプラの木。



空中回廊からモールを見下ろすと、両脇に見事な紅葉。春夏秋冬の表情が楽しめる。



通学路やキャンパスのあちこちに植えられた桜が、一斉に花開く春。キャンパスがピンク色に染まる。



ナビゲーター
依田一裕さん Kazuhiro Yoda

「人の手で管理されている所と自然のままに残されている所、そのコントラストを楽しめるのが県立大学の魅力。散歩しているといろいろな発見がありますよ」と話すのは、開学以来、緑化管理を担当している共同園芸の依田一裕さん。四季の景観はもちろん、虫の声や鳥のさえずりを楽しんだり、自然の生態や成長の変化を楽しむのもおすすめという。キャンパスをゆっくり散歩しながら、お気に入りポイントを探すのも楽しいかもしれない。

特集 02 Features02 県立大学のビューポイント

季節を楽しみながら キャンパス散歩!

人と自然との調和をテーマに設計された岩手県立大学のキャンパスは、地域住民や学生に親しまれる憩いのスポット。春の桜並木、夏の新緑、秋の紅葉など、構内には四季折々の表情が楽しめるポイントがいろいろ。今回はキャンパスから眺められる、とっておきの風景をご案内しよう。



1 「思惟の小径」は学生や地域住民に愛される散策路。犬を連れて散歩する人々もよく見かける。





7.2

滝沢・宮古で夏のオープンキャンパス開催!

7月6日に滝沢キャンパスで、7月27日及び8月24日に宮古キャンパスで、オープンキャンパスを行いました。滝沢では10時からの学長メッセージに続いて学部説明会や模擬講義、各学部でのイベント、学食・図書館開放などが行われ、約2700名もの参加者が岩手県立大学を満喫する1日となりました。キャンパスアテンダントによるキャンパスツアーやワークショップもたくさんの方が参加し、特にサークルパフォーマンスは炎天下にも関わらず大盛況。会場は暑さを吹き飛ばす熱気に包まれました。また、宮古キャンパスでは81名が参加。施設見学、学生寮見学、在学生による学生生活の紹介などが行われ、宮古短期大学部の魅力を知っていただくきっかけとなりました。

地元企業を知ろう・プロジェクトin岩手県立大学

岩手県中小企業団体中央会との共催イベント「地元企業を知ろう・プロジェクトin岩手県立大学」が7月2日に本学で開催されました。これは、広く学生に県内中小企業の魅力を知ってもらうことで、地元への人材定着を目指す取り組み。一般的な企業説明会と異なり、企業の担当者が学生の待つテーブルを訪問して企業がPRを行うスタイルが大きな特徴です。県内に本社や事業所を持つ企業22社が参加し、4年制・短大の学生約130名が、熱心に企業のPRに耳を傾けていました。

TAKIZAWA CAMPUS

7.6



MIYAKO CAMPUS 7.27, 8.24



総合政策学部の学生と滝沢市議会議員との懇談会

7月14日に本学の総合政策学部を会場に、滝沢市議会議員との懇談会が実施されました。これは、学部の政治過程論特別セミナーの授業の一環として行われたもので、3年生18人と滝沢市議会議員18人が参加。市民懇談会形式で、市制移行した今年1月に施行した議会基本条例についての意見交換を行いました。学生からのさまざまな質問に議員が答え、学生たちにとっては普段接する機会のない議会活動に直接触れる貴重な機会となりました。



7.14

学生ラジオCM ON AIR!

10/13(月)~12/19(金)に、学生が作った1分間のラジオCMを放送。FM岩手の「School of Rock(月~金22:00~23:55)」内でオンエアされるので要チェック!

「多目的スペース 風のMont」オープン!

7月16日、図書館の隣に、学生の学びのための「多目的スペース 風のMont」がオープンし、中村学長とライブラリー・アテンダントによるテープカットが行われました。学生歌「風のMont」から名づけられたこの場所は、グループワークなどの仲間同士による交流、小イベントなどで利用できるほか、毎週金曜日にはハローワークの職員による就職相談が行われます。勉強の合間に一息つきたいときなどに利用できるよう、飲食可能となっているのも特徴です。学生たちが気軽に集まり、交流する場としての活用が期待されています。



8.4-8



7.16

ソフトウェア情報学部「夏休みオープンラボ!」開催

8月4~8日、ソフトウェア情報学部で「夏休みオープンラボ!」が行われました。高校生を対象に本学の研究室での生活を体験してもらうもので、昨年に引き続きの開催です。プログラムの初日となる4日には、高校生8人が「ヒューマンインタフェース講座」を体験。講座のプリマ准教授からコンピュータの変遷や高校数学とコンピュータ技術の関連性などの説明に続いて、物体認識・追跡技術の解説をゲームで体験しながら学習。その後、実際に顔を検出するためのデータ作成をグループごとに体験しました。高校生たちは大学生のサポートを受け、熱心に作業に打ち込んでいました。

日中の学生による共同イベント「わくわくどきどき中国フェスタ」

8月5日に中国・重慶師範大学の学生と岩手県立大学の学生による共同イベント「熱中日中!チャイナに夢中♥わくわくどきどき中国フェスタ」がいわて県情報交流センター(アイーナ)で開催されました。今年3月に本学学生が日中交流センターの事業で訪中し、行ったイベントをきっかけに実現した交換プロジェクトの一環で、企画・実施を重慶師範大学の学生10名が行い、来日学生のサポート・イベント運営全般を本学の学生が行いました。輪回しなどの伝統の遊びや、「中国結び」作り、伝統衣装を着ての記念撮影などの体験コーナーがあり、大人から子どもまで、楽しみながら中国文化に親しみました。



8.5

いわてGINGA-NETプロジェクト「夏銀河2014」

夏休み期間を利用し、被災地で全国の学生ボランティアが復興支援活動を行う「いわてGINGA-NETプロジェクト夏銀河2014」が実施されました。この活動は学生ボランティアを中心に被災地の復興支援を行う「いわての教育及びコミュニティ形成復興支援事業」(文部科学省補助事業)として、本学がNPO法人いわてGINGA-NETに業務委託し実施しているもの。4年目となる今年は8月13日から9月にかけての全3期の活動で、学校や仮設住宅を会場とした子どもの学習支援や漁業支援など、「岩手の魅力」をテーマに、地域の魅力を活かした復興支援を行いました。



8.13-

10月25日・26日は大学祭! 楽しいイベントいっぱいの滝沢・宮古の両キャンパスへ!

■滝沢キャンパス

テーマ **つぼみ** ~ 咲え **★輪の花** ~

意味: 全ての人の想いや笑顔を「つぼみ」に込め、大輪の花を咲かせられるような大学祭に岩手県立大学大学祭は実行委員だけでなく、運営に協力していただいている方や数多くの来場者がいて成り立っています。そのような方々に心からの感謝を伝えるとともに、笑顔が生まれるような大学祭をしたい。そして、大学祭にかかわる全ての人の想いや笑顔を「つぼみ」に込め、大輪の花を咲かせられるような大学祭を目指し、このテーマを掲げました。

○主なイベント紹介
非公式ギネスチャレンジ! / 「レモン3個早食い」部門と「顔に洗濯ばさみ」部門の2部門を開催します! 公式ギネス記録を打ち破る挑戦者は現れるのか~!? Combination Live Box / 夢のコラボを講堂! あなたもコラボに参加できちゃうかも!? 模擬店王者決定戦 勝つのは! オレだオレだオレだ~!! / たくさんある模擬店の中から、模擬店の王者を決めちゃいます!! 果たして勝つのは!? ご投票、お待ちしております! エイムスの部屋 / 大きい人が小さく、小さい人が大きく見えるトリックアート登場! 休憩スペースもあります。IPUフリーマーケット / とっておきの振り出し物が見つかるかもしれません!! ぜひ足を運んでください!

ステージイベント(25日)

日程	イベント名	主催団体
25日(土)	オープニングセレモニー1日目	大学祭実行委員会
	さんさ踊り	さんさ踊り実行委員会
	エレクtoonサークル	Joyful
	SEG MEN	SEG MEN
	ギタークラブ	ギタークラブ
	新企画 非公式ギネスチャレンジ!	大学祭実行委員会
	ひめかみクローバーZ	ひめかみクローバーZ
	いわて純情むすめ	JA 全農いわて
	中夜祭	大学祭実行委員会

ステージイベント(26日)

26日(日)	オープニングセレモニー2日目	大学祭実行委員会
	アーティストライブ	大学祭実行委員会
	JAM!!	JAM!!

26日(日)	音楽療法入門	山あらしのジレンマ
	ガンライザーキャラショー・握手会	大学祭実行委員会
	D・A・T	D・A・T
	軽音楽部	軽音楽部
	ライブ	うたたね日和
	県大の選手権	大学祭実行委員会
	手話とマンドリンのコラボ!!	ころまり
	ア・カベラサークル	ア・カベラサークル
	GF	大学祭実行委員会

※イベント名等は変更の可能性があります。最新情報→大学祭実行委員会のHPへ

■宮古キャンパス

テーマ **「真」**
○主なイベント紹介
お化け屋敷 / ビンゴ大会 / 仮装大会 他

時間: 両日とも10:30~15:30

講堂イベント(25日)

25日(土)	日程	企画・団体
		ア・カベラサークル Jelly Beans
		吹奏楽サークル Seventeen「集え!! オシャンティー!!」

講堂イベント(26日)

26日(日)	日程	企画・団体
		劇団ちやねる 第39回公演 Combination Live Box

同時開催

OPEN CAMPUS in IPU Festa 2014

今年も大学祭とオープンキャンパスがコラボレート! 大学祭を楽しみながら、県大での学び・生活への理解を深めよう!!

○オープンキャンパスイベント(10:00~17:00)
大学紹介・入試相談や学部を身近に感じる体験・紹介イベント、在学生の「キャンパス・アテンダント(CA)」による相談、キャンパスツアーも。さらにトークイベントでは、学長と若者たちが「大学」について楽しく語り合います。迫力の大画面「ドライビングシミュレータ」などを体験できる! MOS施設公開もお見逃しなく!

詳しくは <http://www.iwate-pu.ac.jp/>



※写真は昨年度の大学祭(滝沢)の様子



This is My Action!

OB&OG Voice

大学で学んだことを自分の糧としながら、様々な分野で活躍する県立大学の卒業生たち。それぞれの職場や地域で頑張っている卒業生の「ワタシアクション!」をご紹介します。

編集後記

今号から広報誌が「IPUMAG」から「IPUアクション!」へとリニューアルしました。学生や教員、学部などそれぞれの「アクション」をキーワードに、岩手県立大学の旬な話題をお届けします。特集1で取り上げた「地域創造学習プログラム」では、1泊2日のコース内容を企画学生がコーディネートしました。現地で見られない風景を見て、聞けない話を聞くことに加え、続くワークショップで今の自分達に何ができるかをひたすら「考える」プログラム。参加学生にとって実り多い2日間となったのではないのでしょうか。(企画室:三輪 陽子)

IPU公式アカウントについて

岩手県立大学では、お知らせやイベント情報などについて、よりリアルタイムに発信をするためTwitter公式アカウント【@IPU_official】で情報提供を行っています。さらに、インターネット上での情報発信力をより一層強化するために、Facebook、YouTube等の活用も行っています。是非、Twitterアカウントの「フォロー」、Facebookページの「いいね!」によりコンテンツをご覧ください。



一番大切なのは患者さんとご家族、いつも気持ちに寄り添える看護師に。

私が医療の道を目指したのは、大好きだった祖父の死がきっかけです。両親が共働きだったこともあり、私の面倒を見てくれたのは祖母や地域の人たち。自分を育ててくれた故郷のために働きたい、そんな思いから岩手県立大学に進学しました。

看護学部で学んだ中で、特に印象深かったのは看護実習。教科書だけでは知り得ない生きた勉強ができましたし、何より患者さんやそのご家族との触れ合いが大きな支えになりました。

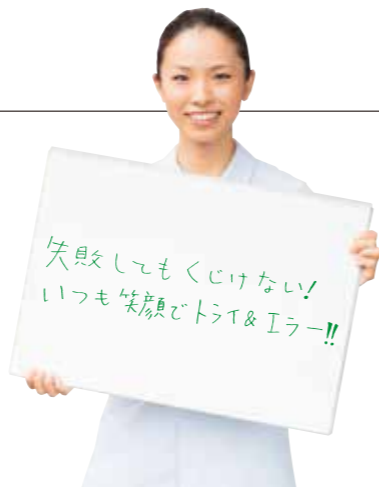
卒業後は、岩手県医療局に就職し、県立久慈病院へ。神経内科・脳神経外科・形成外科病棟を経て、現在は救命救急センター病棟に勤務しています。看護師になって4年目ですが、多くの患者さんとの出会いが私を育ててくれました。特に難病と言われるALS(筋萎縮性側索硬化症)や失語症の患者さんを担当した時は、コミュニケーションを取ることさえ難しく、「自分に何ができるのか」を模索する日々…。試行錯誤を繰り返す中でたどり着いたのが、患者さんの気持ちに寄り添うこと。少しでも患者さんを理解し、痛みや悲しみを分かち合えるよう努めることが、一番大切なんだと学びました。

今は救命救急センター病棟で、様々な病気を抱える患者さんを担当させていただいていますが、これまで経験したことのない症例に接することもあり、毎日が勉強です。どんな現場であっても学べることを全力で吸収し、一人でも多くの患者さんが笑顔で退院できるように、橋渡しができたら嬉しいですね。

ワタシ★アクション!

澤山 望 Nozomi Sawayama
岩手県立久慈病院

1988年生、岩手県洋野町出身。久慈高校卒業。5人兄弟の末っ子で、検査技師などを行っている兄弟の影響もあり、医療の道へ。大学時代は保健師を目指して勉強していたが、医療現場での経験がどんな仕事にも活かせると思って看護師に。休みの日はドライブや買い物を楽しんでストレスを解消することが多いとか。



...See You Next Action!

岩手県立大学の魅力を発信すべく日々活動する学生団体、キャンパスアテンダント(CA)。そんなCAたちがお送りする、県大生の県大生による県大生の今を伝えるためのコーナーですっば(*´▽`)♪

ケンダイ★広報局

学生★企画!!



夏休みちゃんねる

およそ2ヶ月ある(!)長い夏休み、どう過ごしてる?? 県大生の夏休みに密着しました!!(°▽°)



海外研修

中国人留学生と交流があり、海外に興味を持っていたもとちゃんは、2週間の語学研修で北京に滞在☆平日の午前は語学、午後は書道や中国結といった伝統文化体験、そして土日は観光というスケジュール。「北京ダックやラムのしゃぶしゃぶなど、中華料理がおいしかった!」ともとちゃん。露店でのショッピングでは覚えたての中国語で値段交渉するという、現地ならではの体験も。「現地交流が楽しくて、帰国したときは中国シックになりました」と、とても充実した研修だったようです。

もとちゃん

岩手県立大学さんさ踊りチームは、今年で最優秀賞5連覇実行委員会として参加したしおりん、担当パートは踊りです♪実際と同じ距離を歩いている練習ができなかったため、800m歩きながら踊ったのは本番が初めてでした。そのせいかみんな

さんさ踊り



なクタクタで、しおりんもフラフラだったとか。最優秀賞連覇が途切れずほっとしたけれど、「来年も頑張らなきゃ」という思いも。「去年とは責任感が違いました」としおりん。さんさ踊りの発表は、10月の大学祭でも行われます!最優秀賞の踊りを、そしてしおりんの活躍をぜひご覧ください☆

しおりん

1年の時に初めてボランティアに参加したせがゆー♪全国から被災地にボランティアとして集まった学生と共に仮設住宅でサロンを開いたり、住民の人の要望でワカメを茹でるなどのボランティア活動をしたそうです!ボランティアを通してせがゆーは、方言の壁を感じました。また、仮設住宅に住んでいる人から辛いお話などを聞き、震災の経験を伝えたいと言います。沿岸が身近に感じられるようになり、機会があればまた行きたいと話していました。

せがゆー

ボランティア



ほかにも...

- ・大曲の花火大会
 - ・合宿免許
 - ・成人式
 - ・インターンシップ
 - ・20歳パーティ
- などの声もありました!!

CA&T

ここでは、このページの制作メンバーを数回に分けて紹介していきます! ((o((≧▽≦)))



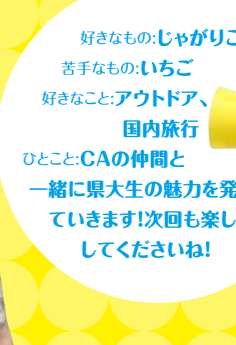
好きなもの:炭酸飲料
苦手なもの:早起き
好きなこと:カフェご飯をすること
ひとこと:楽しいページにできるよう頑張ります(°o°)/

社会福祉学部
あいびー



好きなもの:西瓜
苦手なもの:茄子
好きなこと:F1観戦
ひとこと:わくわくするような楽しいページを作れるように頑張ります!

ソフトウェア情報学部
わかねぎ



好きなもの:じゃがりこ
苦手なもの:いちご
好きなこと:アウトドア、国内旅行
ひとこと:CAの仲間と一緒に県大生の魅力を発信していきます!次回も楽しみにしてくださいね!

ソフトウェア情報学部
ともちゃん